

令和2年度第1回図書館協議会

日時 令和2年6月24日（水）10時から 図書館多目的室

出席

委員 佐伯委員、村瀬委員、岡田委員、浅田委員、真弓委員
田中委員、馬淵委員、今関委員、岸本委員、足達委員
木村委員、梅景委員

事務局 田代教育長、細谷教育部長、林教育部次長
松本館長、西村副館長、佐藤参事、天谷主査

会議録

1 開会

2 任命書交付

3 挨拶

【教育長】新しい任期がスタートした。委員の皆様には快く就任を引き受けて頂きお礼申し上げます。15人中8人が新任となる。それぞれのお立場からご意見を頂戴したい。

新型コロナウイルスの影響で市民の皆様にはご不便をおかけしているが、図書館としては感染防止に努めながら可能な限り資料の提供に努めている。現在は感染状況も収まってきているので少しずつ再開をしている。しかしながら専門家の意見では第2波・第3波の可能性も大いにあると言われているので、感染防止の取り組みは引き続き実施していく。来館者にも新しい様式による行動をお願いしているところである。

委員の皆様には引き続きご理解とご支援をお願いしたい。

4 委員紹介

5 職員紹介

6 役員の選任

会長に岸本委員、副会長に佐伯委員を選出した。

【会長】前期に引き続き、よろしく申し上げます。市民の皆様にあされる図書館にしていくために、委員の皆様にご協力をお願いしたい。

図書館学者ランガナタンの著書に『図書館学の五法則』というものがある。

「五法則」の1番目は「本は利用するためのものである」ということ。当然に思われるが、20世紀初頭、図書館の本は利用するためのものではなく、保存するためのものだった。そして5番目が「図書館は成長する有機体である」。

図書館は市民とのコミュニケーションにより養分を取りながら成長していく。したがって、市民がいろいろな声を寄せることが重要である。成長のためにさまざまな意見が必要となる。市民の声を聴くことは図書館の大切な仕事である。市民の声を届ける場である図書館協議会における委員の役割は責任のあるものである。図書館がますます成長していくために協議会で意見を出していくことは、大きな意味を持っている。

コロナ禍でたいへんな中で、いままでの図書館運営では気づけなかったことがあると思う。それを次の図書館活動に活かしていただきたい。この時期を、コロナ後の図書館のための成長の要素としてとらえたい。

【副会長】会長は図書館の専門家でいらっしゃる。滋賀県の図書館振興に様々な活動をされてきた。守山の図書館は成長していると実感している。委員の皆様の意見を伺い上げながら、活発な会になるよう自分自身も活動していきたい。

7 報告事項

【会長】令和元年度の運営状況と新型コロナウイルス感染拡大防止対策について、あわせて事務局より報告をお願いします。その後、委員より質問をお願いします。

【事務局】資料に沿って説明

【会長】初めての顔合わせとなるので、委員一人ずつご意見ご感想をお願いしたい。

【委員】報告については、たいへん詳しくデータとしてしっかりと出されている。本の消毒についてどのようにしているのか、質問したい。

【事務局】返却された本を、ふきんに消毒液をつけて1冊1冊カバーをふいている。

【委員】港区の図書館では、本の消毒機があると聞いた。お金がかかると思うが、感染予防の観点からご検討いただきたい。

【委員】草津市の図書館が設置している。

【委員】未所蔵のリクエストの提供について、県立図書館からの借受が30%である。県立をよく活用している。臨時休館中の在架予約の方法についてお聞きしたい。

【事務局】移動を自粛していただく観点から市内の方のみ予約を受け付けた。期間限定でWEBサイトの設定を変更し、WEBから予約申し込みできるようにした。そのほか電話・FAXでも受け付けていた。予約図書を受け取りに来られたときに要望される場合もあった。

未所蔵のリクエストについては、電話で受け付けた。具体的な書名ではなく、大まかな分野によるご希望にもお答えした。

【委員】1日の貸出冊数が平均800冊なので、休館中にも関わらずかなりの利用があったと評価できる。

【委員】読書会活動をしている。新しいメンバーの参加について課題がある。

【委員】新しい図書館になってうれしいが、個人的には慣れなかった。絵本を利用することが多いが、全面が窓ガラスで明るすぎ本に集中できなかった。2年目にしてようやく最近慣れてきた。知人にも同じ感想を持つ方があった。明るいのはいいが、個人的に書架は薄暗い方が好み。

図書館サポート隊の活動報告については、実績に対する図書館の評価と課題がまとめられていると次につなげられるのではないかと。来年度改善することもできる。

また、サポート隊の横のつながりが薄い。年度途中で来られなくなる方もあり、メンバーが固定化されてしまう。そうすると久しぶりに来た人が入りづらい。イベント当日以外に集まれる機会があればよい。

【事務局】担当職員は一緒に入って参加しているが、その様子や課題等を図書館全体で共有する必要がある。

【委員】サポート隊の横のつながりを持つ場が、年1～2回あればと思う。

【事務局】昨年度は「としょかん誕生祭」を開催し、2日間にわたり図書館サポート隊の方々と様々なイベントを行った。あの2日間においてはサポート隊の横の交流もあった。今後もそうした場は必要だと認識している。

【委員】サポート隊の活動については、図書館が評価するのではなく、サポート隊同士が集まって、自分たちの活動を評価しあう形でもよいのではないかと。

【委員】創業支援の取り組みについて、地元の女性起業家のイベントを開催し、成果があった。市長が「起業家の集まるまち、守山」を目指している。継続的な活動をのぞむ。図書館はいろいろな方が利用する施設なので、大きな効果が期待できる。

また、駅前総合案内所での予約本の受け渡しの利用が増えている。案内所の職員はたいへんだと聞いているが、相談して良い方法を考えてほしい。

【委員】速野学区ではおはなしボランティアや子ども文庫をしている。北部地域図書館にとっても期待している。図書館のサービスについては、知らないこともあるので勉強したい。学区では図書館に来にくい人もあると聞いている。地域の声を届けたい。

【委員】図書館が休館して本当に困った。開館してすぐにリクエストを出した。ふだん図書館にいかに頼っていたかということを実感した2か月だった。

たとえば、1980年代と2020年の養護施設の設置基準を調べることがあった。依頼したところ、県立図書館の資料を取り寄せてくれた。いろいろな意味で図書館の機能を再確認した。私たちの生活に図書館が深く関わっていることがわかった。

また、司書のすごさを感じた。長く利用しているが、カウンターにいる職員が自分がよく知らない人でも、責任を持って答えてくれる。「カウンターにいる人はニコニコ笑っていればいい」という意見も聞くが、職員はニコニコ笑っているだけでなく市民の要求にとっても丁寧に対応している。どの市民に対しても平等に丁寧に調査をしている。すごくいい図書館だと思う。

さきほど別の委員から「明るくて使いにくい」という意見もあったが、建設委員会の協議では明るくしようという方向だった。市民同士のつながりの中で図書館が活用されるためには明るい雰囲気が必要だった。慣れてくださるとうれしい。

図書館の近くに住んで図書館をずっと見てきた者からすると、市民に向けてこれから動いていこうとする雰囲気を感じる。

また、カウンター前の司書がつくる特設コーナーが頻繁に工夫されている。若い人の目に留まるテーマもある。一時期若い人が少ないと言われていたが、貸出しは伸びていると聞いている。ただ、ティーンズコーナーについては、よく工夫されているが使われていないという印象。もっと頑張る必要がある部分だと感じる。

図書館としては、よい資料を備えることで、場所よりも資料で応援していきたい思があるという聞いている。

図書館の独自性は市民に資料を提供するという、それが出来始めている。

【委員】今年度からの新任となる。速野学区では、「図書館に行きたいが遠い」という声をよく聞く。子どもたちは絵本が大好きで、勤務先の幼稚園では絵本の部屋を設置し、貸出しをしている。北部図書館ができるのを楽しみにしている。

【委員】年齢別の貸出冊数を見るとやはり中高生の利用が少ない。勤務していた中学校で読書機会を増やす取り組みをしたが、なかなか成果が出なかった。近年はスマホで文書を読む時代であり、難しい。小学生低学年の場合、学校で絵本を読むのを楽しみにしている。成長の過程でそれをどう引き継ぎ、家庭でも広げていくか、考えている。活字離れ、本離れが進まないように努力していく。

【委員】中高生の貸出について、図書館ではどう分析しているのか。

【事務局】他の年齢層よりは少ないが、前年比では増えている。

【委員】高校図書館に勤務している。規模の大きい図書館の数字はすごいと感じた。高校図書館では貸出冊数が年々少なくなっている。去年は前年比で 1,000 冊も減少した。さらに 3 月からは休校になってしまった。再開するにあたって、消毒・フェイスマスク等の対策をしている。なんとか図書館に来てもらいたい。

いままでは学校では携帯電話が持参可能だったが、授業にも支障が出る恐れがあり、今年から使用禁止とした。登校したときにロッカーに入れてもらう。その成果が 6 月から、昼休みに図書館に来るようになった。居場所を求めて図書館を利用しているケースもある。

高校の図書館には司書が常勤しているので、いつ来てもよい。授業中でも、先生の許可を得ればよい。小中学校とはちがう点だ。

小中学校の学校司書の配置について、週 1 回でも図書館が開いている日があるというのは児童・生徒にとって非常に良いことだと思う。その経験が積み重なれば、図書館を自然に利用することができるようになると思う。

【委員】報告資料は、すごくわかりやすく分析している。いかに聞き手にわかりやすい資料を作るかということが大切だと感心した。ただ、年齢別の統計が、60 歳以上でまとまってしまっている。高齢者も年齢別に丁寧に分析した方がよい。

家族は図書館が大好きで、長く滞在したいと言っている。休館中は行くところがなかった。ようやく開館したが、まだ館内ではなかなかゆっくりできない状況にある。

コロナとはずっと付き合っていかなければいけないと思われるので、市民が図書館でゆっくり過ごせる体制を考えてほしい。

自分としては、雑誌が増えたことがよかった。気楽に読めて楽しい時間を過ごせる場があるのがよい。

8 協議事項

【会長】守山市立図書館運営方針および令和 2 年度活動計画、学校図書館の環境整備、北部図書館機能・コミュニティ機能の整備について合わせて説明をお願いする。

【事務局】資料に沿って説明。

【委員】以前、学校司書と教員と交流していただきたいと意見した。学校ではどのような状況か。

【委員】まず、校長と職員とが話をする時間がない。小学校だと児童が帰るまで職員が教室から戻ってこない、という点で困難がある。学校は今月から始まったところ、今後取り組んでいきたい。

【委員】学校司書は一人で仕事をしていただいている。職員との交流が不可欠。

【委員】北部図書館の蔵書について、本館との流通はどのようになるのか。

【事務局】季節の資料や予約図書について、本館から配送を行う。

【委員】小さな図書館なので、蔵書はすごく大切。きちんと選書すれば本館よりも使いやすいくなるはず。

【委員】分館としての働きを期待する。司書の配置はどうなっているのか。

【事務局】北部図書館にも司書は配置し、レファレンス等の対応も行う。

【会長】学校図書館、北部図書館について、協議会以外でも気軽に意見を出していただきたい。

9 その他

【会長】事務局からあればお願いします。

【事務局】守山市子ども読書活動推進計画第3次計画が完成しましたので報告します。次回の協議会は10月頃を予定しています。

【会長】次回もぜひご出席をお願いします。それでは進行を事務局に戻します。

【事務局】本日はありがとうございました。

10 閉会